

ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ(Hib)の予防接種について(五種混合)

令和6年度より五種混合ワクチンが定期接種化されます。

これまで、四種混合ワクチンと、ヒブワクチンを別々に接種をしていましたが、令和6年度より四種混合ワクチンに、ヒブワクチンを加えた、五種混合ワクチンが定期接種化しました。必要な定期接種ワクチンの総接種回数が削減されます。

五種混合(DPT-IPV-Hib)ワクチンは、ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブの五つの病気を予防するワクチンです。

ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブについて

(1) ジフテリアについて

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。感染は主にのどですが、鼻腔内にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜がのどにできて窒息死することもあります。発病2〜3週間後には、菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがありますので、注意が必要です。

(2) 百日せきについて

百日せき菌の飛沫感染で起こります。百日せきは、普通のカゼのような症状ではじまり、続いてせきがひどくなり、顔を真っ赤にして連続的にせき込むようになります。せきのあと急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。通常熱はでません。乳幼児はせきで呼吸ができず、くちびるが青くなったり(チアノーゼ)、けいれんが起きるあるいは突然呼吸が止まってしまうことなどがあります。肺炎や脳症などの重い合併症を起こしやすく、新生児や乳児では死亡することもあります。

(3) 破傷風について

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中にいる菌が、傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉のけいれんを起こし、治療が遅れると死亡することもあります。患者の半数は、本人や周りの人では気がつかない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

(4) ポリオについて

ポリオは、わが国でも1960年代前半までは大流行を繰り返していましたが、現在は、予防接種の効果で、国内での自然感染は報告されていません。

ポリオウイルスはヒトからヒトへ感染します。感染したヒトの便中に排泄されたウイルスが口から入り、のどや小腸の細胞で増殖します。ウイルスは4〜35日間(平均7〜14日)腸の中で増えますが、ほとんどの場合は、症状が出ず、免疫が得られます。症状が出る場合、ウイルスが血液を介して脳・脊髄へ感染し、麻痺を起こすことがあります。

ポリオウイルスに感染すると100人中5〜10人は、カゼ様の症状があり、発熱、頭痛、嘔吐があらわれます。感染した人の中で、1,000人〜2,000人に1人の割合で手足の麻痺を起こし、一部の人には、その麻痺が永久に残ります。また、麻痺症状が進行し、呼吸困難で死亡することもあります。現在でも、一部の国ではポリオの流行がありますので、予防のためポリオワクチン接種を続けていく必要があります。

(5) ヒブ(Hib)について

インフルエンザ菌、特にb型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な深部(全身)感染症(侵襲性感染症とも言います。)を起こす、乳幼児にとって問題となる病原細菌です。Hibによる髄膜炎は平成22年以前は、5歳未満人口10万対7.1〜8.3とされ、年間約400人が発症し、約11%が予後不良と推定されていました。また、生後4か月〜1歳までの乳児が過半数を占めていました。現在は、Hibワクチンが普及し、侵襲性Hib感染症はほとんどみられなくなりました。

五種混合(DPT-IPV-Hib)ワクチンについて

五種混合ワクチンは、百日せきの不活化(死菌)ワクチン、ジフテリア・破傷風のトキソイド(毒素を免疫するもの)、不活化ポリオワクチン及びヒブ(Hib)の混合ワクチンです。

副反応

臨床試験において、承認時までには得られた主な副反応は、接種部位の副反応として、紅斑・硬結・腫脹など、注射部位以外の副反応として、発熱・気分変化・下痢・鼻漏・咳嗽・発疹・食欲減退・咽頭発赤・嘔吐などが見られました。また、重大な副反応としては、極めてまれにショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれんがみられることがあります。

次のページへ続く→

ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ(Hib)の予防接種について(五種混合)

対象者及び
接種スケジュールに
ついて

接種対象者 (対象年齢)

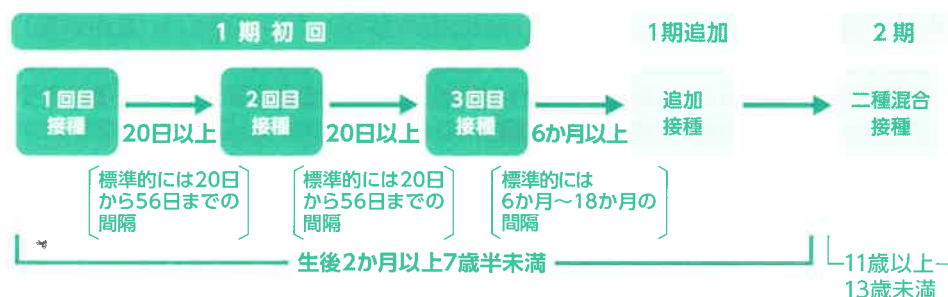
1期初回接種(3回)

生後2か月以上7歳6か月未満の者

1期追加接種

※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。

【五種混合ワクチンの場合】



※2回目以降の接種は、ワクチンを接種した日の翌日から起算してください。

※1期初回接種(3回)を確実にを行い、基礎免疫を作ることが重要ですので、忘れずに受けましょう。

※特段の事情があり、五種混合ワクチン以外のワクチン(四種混合・三種混合・二種混合)の接種を希望する場合は、ワクチンの手配等の手続きが必要です。医療機関へ予約する前に感染症対策課へ御連絡ください。

接種時に持参するもの

- ① 五種混合予防接種予診票
- ② 母子健康手帳 (接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)